



解説


①寛永貳拾年未八月晦日：江戸時代の漢数字は「一」を「壹」、「二」を「貳」、「十」を「拾」と表すのが一般的です。「二十」は「廿」と記すこともあります。また、干支も併せて表記されます。

②明暦貳年申ノ十一月廿日：「月」は「る」の様にくずします。「年」の横棒と縦棒が離れているので読みづらいですね。

③寛文九年巳二月：「年」が現在の常用漢字と少し形が違いますが読みましたか。

④天和三年亥八月：「亥」が多少くずれていますが、段々目がくずし字に慣れてきたのではないでしょうか。

⑤元禄十一年寅四月：「禄」の示扁四画目「ネ」の点はこの様に省略されていますね。「寅」も「田」の部分が、「四」も中の「ル」の部分が省略されています。

⑥享保拾二年未十二月日：①の「拾」と同じ字です。傍の「入」の部分が小さくなっているのが特徴です。

⑦安永四未二月：「安」の一角目の点が省略されていますが、なんとなく雰囲気で解読できるのではないのでしょうか。

⑧元文六年：「文」の点は二画目とつながっています。


⑨寛延三年午三月：①の「寛」と同じ字です。「年」は「〇」のようになってしまいました。

⑩宝暦六年：②の「暦」より読み易いですね。

⑪天明七年：④の「天」②の「明」と同字です。

⑫文政十亥年三月：「政」の三画目の縦棒が省略されています。

⑬天保八酉年：三度目の「天」ですね。これは皆さん読めたのではないのでしょうか。

⑭安政貳卯年：「安」は「あ」の字母（ひらがなの由来の字）ということが良く判る例です。これが読める人はスゴイ！

⑮万延元申年七月：「萬」は「万」の異体字（現在使用される常用漢字以外の文字）です。

⑯慶應四年三月：「應」は「応」の異体字です。この様に古文書では現在あまり使われない文字が多くみられます。

参考資料

- 『元号事典』川口謙二・池田政弘／東京美術選書
- 『元号の歴史大事典』相田清／くもん出版
- 『彩色大江戸事典』エディキューブ／双葉社
- 『図解江戸用語早わかり辞典』河合敦／ナツメ社

